

日本の学童保育 2025 年 1 月号

「自分の時間の主人公になれる放課後づくり 早稲田大学 阿比留久美先生」を読んで

1. はじめに

学童は、学校での学業から解放された、子どもの自由な時間です。私たち放課後支援員は、子どもたちにとって大切な時間を有意義に過ごせるように支援することが大切です。今回は、早稲田大学の阿比留久美先生が、日本の学童保育 2025 年 1 月号に掲載した「自分の時間の主人公になれる放課後づくり」を読んで、私が大変参考になった言葉をまとめました。

2. 参考になった言葉

今の日本社会は、放課後における子どもたちへの様々な取り組みがなされ、子どもたちの居場所づくりが行われていますが、それは大人の不安を反映した取り組みであり、子どもたちが豊かで楽しいものになっていません。あらかじめ大人が準備した時間、大人が主導権を握り運営する時間で埋めていくことが、子どもから自分の時間の主人公であるという意識や、日々の楽しさを奪っていることはないでしょうか。放課後は、決められた時間に決められたことをやらなければならない学校とは異なる時間であり、その時間の過ごし方を大人ではなく、子ども自身が主導権をもち、自分で決めることのできる自由な時間となる可能性のある時間です。子どもが自分で自分の時間の過ごし方を決めていくことは、子どもが自分の時間の主人公になることであり、自治・自律を手にするにつながります。

では、子どもの放課後の時間を支える大人はどのような関わりをするとよいでしょうか。それは一言で言うと、子どもが自分で「遊びながら育つ」ことを応援する、ということです。そのポイントは4つです。第1に「大人が聞きたいこと」ではなく「子どもが話したいこと」を聞くということです。第2に、「子どもの声に応える」こと、第3に、こどもの「参加する権利」と同時に「参加しない権利」も大切にすること、第4に、大人の努力が実を結ばないことを受け入れることです。

3. おわりに

学童保育では、多くの子どもたちが、一つの集団として放課後の生活をしています。そのために、宿題をする、おやつを食べる、公園へ行って遊ぶなど、集団としてのタイムスケジュールが必要になります。しかし、そのタイムスケジュールはあくまでも参考であり、一緒にやらない自由もあるでしょう。宿題をするかしないか、おやつを食べるか食べないか、外遊びに行くか行かないか、子どもが自分で考えて決めればよいと思います。放課後は、子どもたちの自由な世界であり、私たち支援員は、子どもの自由な遊びを支えて行くことが大切です。

2024 年 12 月 18 日 KMテクノソリューションズ 南側晃一